平成 24 年度　第 5 回備前市公共交通会議　議事概要

1．日時：平成 25 年 3 月 22 日（金）　13 時 30 分～14 時 45 分
2．場所：備前市保健センター　3 階研修室
3．出席者：（敬称略）
（委員）
副会長　宇治橋　昭　彦（市自治会連絡協議会）
橋　本　成　仁（岡山大学大学院環境生命科学研究科　学識経験者）
三　村　　　功（総務部長）
岩　崎　　　透（市教育委員会）
大　本　一　栄（日生運輸株式会社）
香　西　正　巳（県タクシー協会和気支部）
藤　原　　　真（日生運輸株式会社）
藤　澤　健太郎（市自治会連絡協議会）
更　谷　暢　久（市自治会連絡協議会）
溝　邉　　　榮（市自治会連絡協議会）
三　宅　　　陽（市老人クラブ連合会）
井　上　邦　允（市老人クラブ連合会）
寺　見　史　朗（市老人クラブ連合会）
山　本　啓　之（伊里小学校ＰＴＡ）
井　口　恭　子（吉永小学校ＰＴＡ）
石　原　利　信（JR 西日本岡山支社）
（専門員）
岡　田　和　史（中国運輸局岡山運輸支局首席運輸企画専門官）
秋　本　理　恵（中国運輸局岡山運輸支局運輸企画専門官）
四　条　雅　之（岡山県県民生活交通課交通政策班主幹）
田　中　信　彦（岡山県備前県民局東備地域建設課主任）
（事務局等）
企画課 4 名、教育委員会 2 名、介護保険課 1 名、商工観光課 1 名
（その他）
調査委託業者 2 名
4．欠席者：（敬称略）
（会長）
西　岡　憲　康（市　長）
（委員）
宇　野　泰　正（宇野自動車株式会社）
雄　島　　　仁（大生汽船株式会社）
西　滝　道　雄（瀬戸内観光汽船株式会社）
5．傍聴人：１名（報道）
6．議事
○開会
○あいさつ
○協議事項

（１）備前市地域公共交通計画【案】について

・意見交換会

・パブリックコメント結果

・備前市地域公共交通計画【案】の主な修正事項について

（２）地域公共交通調査事業の議場評価について

○その他

・大多府・鴻島アンケート調査結果

・平成 25 年度事業実施のスケジュール

○閉会

7. 【会議要旨】

◎協議事項

（１）備前市地域公共交通計画【案】について

《事務局》

・資料１～２に沿って意見交換会の結果を報告

・資料３に沿ってパブリックコメントの結果報告

・資料４について、修正点等を説明

《質問・意見》

橋本先生	適切に修正できていると思う。概要版はどういう使い方をするのか。どこで誰に配って市民に周知していくのか。ＰＤＣＡサイクルの Act は改善点の抽出という内容で良かったか。改善点を抽出し、Plan（計画）でまた計画を立て直すということか。
事務局	概要版は意見交換会の際に説明用に作成した資料である。今後使用する予定は決まっていないが、このイメージで広報４月号に出す予定である。その他に、もう少し詳しい概要版も作成しており、市民の方との今後の意見交換の際などでも使っていければと思う。ＰＤＣＡサイクルについては様々な場面で使われるが、今回は公共交通という観点からＰＤＣＡサイクルを検討している。Plan（計画）では、大きな計画を検討するのではなく、微修正をするという考え方で作成している。

（２）地域公共交通調査事業の事業評価について

《事務局》

・資料５に沿って報告

《質問・意見》

橋本先生	事業評価については、事業内容に離島アンケートなども含まれている。先に離島アンケートを紹介するのが順番じゃないですか。
事務局	それでは先に資料６（大多府・鴻島アンケート調査結果）について説明します。（資料６に沿って説明）
橋本先生	アンケート結果は計画書に反映されているのか。
事務局	具体的にどうする、ということは現段階では記載できていない。今後、市がどこまで財政負担できるか、また交通事業者との調整もあるため、具体的な内容は確

定していない。離島での意見交換会を実施した際には、今後も引き続き意見交換を行っていくということを説明している。アンケート結果について、直接反映はしていない。

委員　架橋を決定したときに島民の皆さんに調査をしているのではないかと思うが、その時の結果と、今の結果を比較はしていないのか。

事務局　特にそうしたアンケートは実施していません。

委員　今回のアンケートの結果はだいたい想定できる内容である。本土まで直行してほしいということは、みなさん考えていることだと思う。特に架橋検討前との比較などはしていないのですか。

事務局　特にしていません。

副会長　その他になければ承認とする。

（拍手）

◎その他

《事務局》

・資料７に沿って、今後の事業スケジュールについて説明

対象地域として①吉永・神根・三国地区　②三石地区の交通空白地域をモデル的に実施する。意見交換会を吉永・三石で実施する。意見交換会に出席できなかった住民への周知・意見収集を行うため、意見交換会開催後に会の内容をまとめたかわら版を発行する。住民モビリティ・マネジメントを実施する。実証運行対象地域における、時刻表・バスマップ等を作成する。

《質問・意見》

副会長　モビリティ・マネジメントをわかりやすく説明してほしい。

事務局　ここ数年日本各地で行われている。コミュニケーションを通じて、心理学も応用させた取組として、自発的にマイカー利用をやめて公共交通を利用してもらうような取組のことである。資料４の 35 ページにも具体的な例を載せている。

橋本先生　単純に言うと意識啓発ということである。

秋本専門員　１０月から実証運行を開始するということだが、利用者からお金をとって運行するということか。

事務局　基本的にはそれを目指して進めていくが、場合によってはお試し期間として無料期間を設けることも考えられる。

副会長　その他にないか。なければ、本日の会議はここで終了とする。
一言申し上げると、これまで勉強してきた結果、これからの市の公共交通はこうあるべきということで、まちづくりにつながる新しい公共交通となることを期待したい。本日はありがとうございました。

（拍手）

了